



令和5年度の予算について審議しました

「新しい未来を切り拓き『住み続けられるまち』への変革予算～人口減少にも負けない元気なまちへ」と位置付け編成された新年度予算。さまざまな事業が盛り込まれています。三田市議会では、3月定例会会期中に、新年度予算を審査する予算決算常任委員会を開催しました。委員会で審査した内容の一部をご紹介します。

一般会計 425億9,600万円

総額 857億8,954万円

※総額のうち

特別会計 216億2,450万円

企業会計 215億6,904万円



令和5年度予算の



3つの重点課題はコレだ!

1 さんだ里山スマートシティの推進

— ICT、IoTなどのデジタル技術を活用し、「市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられる持続可能なまち三田」を目指す。
スマート図書館サービス整備事業、デジタル活用健康づくり事業、市役所のスマート化など

2 さんだスタートアップシティの推進

— 新たなビジネスの立ち上げ等にチャレンジする人を増やし、夢とやる気を積極的にサポートすることで「スタートアップに優しいまち三田」を目指す。
商工会創業支援事業等にかかる補助金、チャレンジショップ・トライアルショップ応援事業など

3 ゼロカーボンシティへの挑戦

— 2030年度温室効果ガス49%削減を目標に、市民・事業者・行政が一体となる取組、「さんだ脱炭素カウントダウン作戦」を展開する。
公共施設への太陽光発電設備設置促進、バイオマスプラスチックごみ袋導入など



▶▶▶ 次ページからは、各分科会や総括質疑での審査内容をご紹介します! ▶▶▶

重点課題 さんだ里山スマートシティの推進

スマート図書館サービス整備事業

- 事業の内容は。また、各市民センター等での図書貸出返却について対応はできないのか。
- 図書館システムの更新に併せ、図書館本館・分館・分室において、ICタグを活用した自動で貸し出しができるシステムを導入するとともに、オンラインでの利用登録等の環境を整備し、電子図書も充実させていく。また、市民センターでの予約本の貸出や返却についても検討していく。

デジタル活用健康づくり事業

- ポイント付与型アプリの導入するデジタル活用健康づくり事業に、どのような効果等を期待するのか。
- 健康づくりに気軽に取り組むきっかけや、ライフスタイルに応じた生活習慣の改善、ポイント付与によるモチベーションの維持等の効果が期待できる。また、市保有の検診・医療情報等と日々の行動記録をリンクさせることにより、効果的な保健指導に備えたデータ蓄積や、アプリ利用者の各種データの蓄積が可能となり、将来の市健康施策の指針につながるものと期待している。

重点課題 さんだスタートアップシティの推進

さんだスタートアップシティの推進

- 多種多様な事業が示されているが、ソーシャルベンチャーといったビジネスを用いて社会的課題を解決するような人材の育成にも取り組むべきと考えるが。
- 地域コミュニティなどの課題解決をテーマに、ソーシャルビジネス等に関するセミナー開催やNPOとの連携も含めて広く人材育成に取り組んでいく。

チャレンジショップ・トライアルショップ

- チャレンジショップ応援事業の拡大規模は。また、トライアルショップの進捗状況は。
- チャレンジショップの令和4年度の実績は4件。令和5年度は、これまでの家賃補助に加え、内外装工事費や初期備品等も補助対象とし、より利用しやすくなるよう制度拡充を図る。トライアルショップの令和4年度の実績は4件。令和5年度はさらに利用者増を目指すため、もう少し人通りの多いところに移動ができないか調整したい。また、より多くの方に知ってもらえるよう、事業のPR方法も検討する。

重点課題 ゼロカーボンシティへの挑戦

バイオマスプラスチック使用ごみ袋

- 令和4年度にモニター検証しているが、導入予定時期は。また、1枚あたりの単価が倍近くになるが、市民負担が増えることになるのか。
- モニター検証は現在実施中で、令和5年6月にアンケート調査を集計し、10月以降に指定ごみ袋にしていく予定である。現在1枚あたりの単価が15.62円であるが、令和5年度後期から単価が下がると予想される。また、高くなった場合についても、基金から取り崩し、市民負担を増やすことがないようにしていく。